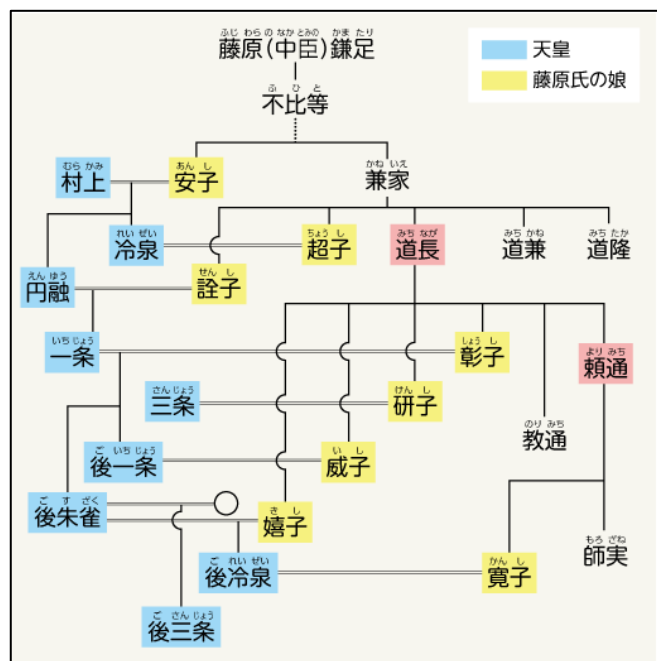


藤原氏と天皇

藤原氏は貴族の中でも特に力をのばし、道長の時代に最もさかえました。藤原氏がどのようにして力をのばしたのか、また、どのようにして権力をふるったのか、藤原氏の系図や道長に関するエピソードなどから調べてみましょう。



↑ア 藤原氏と天皇のつながり

藤原氏と天皇のつながり

8世紀に、藤原(中臣)鎌足の子である藤原不比等は、自分の娘を天皇や皇太子のきさきとしました。

その後、11世紀の藤原道長の時代には、資料アの系図のように、藤原氏は天皇家とのつながりをさらに強めていきました。

こうしたつながりによって、藤原氏は、朝廷の中でさらに有利な立場をきずき、大きな権力を手にしたのです。

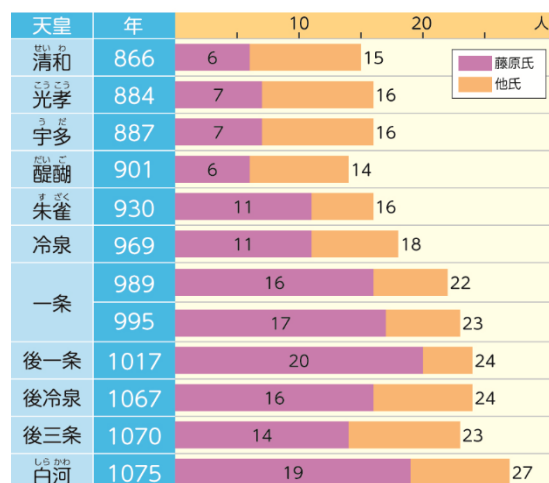
大きな権力をふるった藤原道長

「この世をば わが世とぞ思う もち月の 欠けたることも なしと思えば」

(訳:この世は自分のものだ。満月のように何もかけているものがない。)

このうたは、三女(威子)が天皇家にとついだお祝いに、道長が自宅に客をまねいて食事会を行ったときによまれたうたといわれています。道長のうたの相手をしていた藤原実資はうたをきき、このうたはすばらしいので、その場にいる全員でよもうと提案しました。そして、全員でこのうたをくり返しよんだという話が伝わっています。

資料イは、朝廷に勤める身分の高い役人である公卿の中で、藤原氏出身の人の数を示したものです。道長の時代には、23人のうち17人、道長の息子の頼通の時代には、24人のうち20人が藤原氏の出身です。こうして朝廷の重要な仕事についての藤原氏は、外交や財政、地方の役人の任命など、国の政治に関わりました。



↑イ 身分の高い役人(公卿)のうち、藤原氏の人数